舘報
赤れんが

インタビュー
黒崎 輝男氏
日本を「クリエイティブ」と「ものづくり」の世界中枢にする

フォーカス
トヨタグループ各社の創成と歴史を伝える
トヨタグループ館

vol. 55
地域社会と共に磨く製品づくり・ものづくり

「地域社会と共に」という言葉の重みがあり、今では製造や販売・研究など企業活動を20以上の国・地域で行うアソシエーションという形で展開していることを強く感じています。海外事業の存在感が広まっている中、日本的な視点で製品づくりを進め、果たして世界中のお客様に満足していただけるのか、と常に自問自答しています。

例えば、当社の主力製品の一つにサクセーションがあります。欧米では走行時に外気を直接取り入れる、天気の良い日には全面にして爽快感を楽しむ為に装着する人が多くいます。しかし、中国では、空気の汚れや埃などが多いため、レーパーを閉じる人がほとんど無いか、あるいは、車中での装着率が極端に高いのが現状です。機能ではなく装着する事を自体に意義を見い出しているのです。また、当社はガスエンジンを稼働させ、その時に発生する排熱を利用して暖房を行う家庭用ガスエンジンコージェネレーションシステムがあります。必要な性を改めて見直されている支援型エネルギーの利用・普及に貢献するため、社会インフラが充実していない国々においても快適な生活空間を提供できる可能性があるとして受け入れられるかもしれません。

ここで改めて原点に立ち返ってみれば、豊田総領の一節に「産業報国」とあります。また当社の経営理念は「社会との共生」を掲げています。それらが「国」や「社会」が意味するところは、改めて言えなくても、日本を基盤とするため、私たちが企業活動を行う世界の地域であると考えています。日本のものづくりには、長い時間をかけて培ってきた技術に加え、その過程で生み出した共通の文化と結びがあり、そうした日本のものづくりの強みを核として、世界に通じる新しい価値を生み出して行くことが大切だと考えます。

今後とも、こうした原点を忘れては、地域に根ざした生活者の視点を心掛け、地域社会の発展に貢献できる製品づくりを磨き上げていくことが、誇りを持って取り組んでいきたいと思います。
日本を「クリエイティブ」と「ものづくり」の世界中枢にする

インタビュー  「研究と創造」および「モノづくり」をキーワードに、各界で活躍されている方々にお話をうかがいました

自己実現と社会貢献による生涯

仕事という上、すぐに会社に勤めて給料稼ぐという話になったわけではない。江戸時代のような会社が無かった頃には、「生涯」だけがあったわけだから活躍したわけだ。職種は現代が約6,7千種類ほどに対し、江戸時代は約4万8千ほどだったそうだ。キャリア1本作るのにも10種類以上の分野があったから、誰もが自分の生涯を持って続けていた。それならなぜ、仕事イクールに従業者として自己実現と社会貢献によって自分の生業をつくるという発想で仕事考えてみたんでしょう。青山の国際大学で毎週末に開催している「ファーマーズマーケット」、今では来場者が年間百万万人規模にになりましたが、近郊は農業とその周辺に興味を持つ若者達が増えてきました。おしゃれな農業を指向する人、食糧問題や自然環境を考える人…そういった人鳥の中から肩を張らない、何か面白い、新しいカルチャーや出てくるんじゃないかと期待しています。

混沌と頂点のついて備えてハブになる

その国際大学の学長はスイス人の物理学者なんですが、東京の街を眺めて驚いた。どこかにビジョンが含まれる。イススじゃないけど。

雑誌の「フィードバック」に掲載された、アマゾンの売上が急増している理由について記述されています。アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走っている。そのようにして、アマゾンは、その軌道を描くと、対向車を追い越すようにして車を走を持っている。
トヨタグループ各社の創成と歴史を伝える トヨタグループ館

建設時の旧豊田紡績本社事務棟。

産業技術記念館の南ゲート。豊田佐吉ゆかりの「豊田商会」の建物に隣接するコンクリート造りの3階建が「トヨタグループ館」です。産業技術記念館の建つここは、1911（明治44年）に佐吉によって豊田自助織布工場が設立されたまちで、産業の原点。この建物は1925（大正14年）に、それまであった木造2階建から鉄筋コンクリート造に建て替えられ、長らく豊田紡績本社事務棟として使われてきました。大正末期に建てられた鉄筋コンクリート造の建物は全国的にも珍しく、建物自体が貴重な建築遺産になっています。産業技術記念館では、この建物の1階部分を常時無料で公開し、豊田佐吉が得た特許証をはじめ、トヨタグループ各社の創成に至る歴史的資料を展示しています。繊維機械館や自動車館で展示されている実物や資料を併せてご覧になれば、いっそう興味が増すことでしょう。

トヨタグループ発祥の地

豊田佐吉が発明の足場としたこの地にあって、本社事務所として使われていたこの建物では、1926年に株式会社豊田自動織機製作所（現・株式会社豊田自動織機）の設立総会が、1937年にはトヨタ自動車工業株式会社（現・トヨタ自動車株式会社）の設立総会が開催されました。産業技術記念館では建物の公開にあたり、全面的な修復を行って復元に努め、当時の様子を再現しています。

鉄筋コンクリート造3階建（一部は地下1階）の当館は、我が国産業の近代化に大きく貢献した実例として、他の建物や展示機械とともに、経済産業省より近代化産業遺産に認定されています（2007年）。また、建物の2階・3階には、その当時に使われた役員室や会議室、談話室が、幾つかの調度品とともに維持・管理されています（非公開）。

---

このコーナーでは、展示物をはじめとした記念館関連の1つのテーマに焦点を絞りご紹介しています。
建物の随所に見どころが

大正年間は、まだコンクリート建築が珍しかった時代。しかし関東大震災の後に頑丈なオフィスビルとして設計されたここには、当時の建築技術の絵が盛り込まれました。その一端は「洗い出し技法」が用いられた外壁にも見ることができます。コンクリートがまだ硬化しない間に表面をタワシやブラシなどで水洗いして砂粒を浮き出させるこの技法は、今日では受け継ぐ技能者が少なくなり、貴重な修復事例となっています。

1階はかつての事務室で、レトロな照明器具やタイムレコーダーが印象的。落ち着いた色調のフロアには、各種の資料が順を追って見学できるよう、4つのコーナーが用意されています。このうち最も広いスペースを占めるのが、織機から自動車に至る開発の軌跡を紹介する「研究と創造」をテーマにした展示コーナーです。

展示構成

A 研究と創造  （織機～自動車）
B グループ各社の創成と歩み
C グループの事業に貢献した方々
D 映像コーナー
グループ各社の映像記録を視聴可能

本社事務所であった当時をしつとめるカウンター、ここでは電報などを受け渡す窓口だった。

天野製作所（株・アマノ（株））製「木枠型タイムレコーダー」は昭和14～17年に製造されたと思われる。毎週ゼンマイを巻いているので、当時と同様に今も時を刻んでいる。
研究と創造、そしてモノづくりへの挑戦

豊田佐吉は生涯に84件の特許（海外特許13件を含む）、35件の実用新案を取得しました。その最初の特許取得が、1890年の「豊田式木製人力織機」です。従来の織機に比べ4〜5倍の能率向上をもたらす優れた発明でしたのが、佐吉はこれに満足せず、さらに研究意欲を増して、自らの発明を次々と世に問っていくことになります。

展示はそんな佐吉の創意工夫の成果と軌跡を順に紹介していきます。木製人力織機の発明で初めて取得した特許証と並んで展示されているのは、手動糸糸送機の木製車です。

世界を驚かせたG型自動織機の発明

豊田佐吉が究極の目標に定めて研究と創造に取り組み、1924年に世界で初めて実用化した無停止糸糸送機「G型自動織機」の資料も、ここで見ることができます。G型自動織機は高速運転中にスピードを落とすことなく糸（シャトル）を交換し、この糸を自動的に補給する機構に加え、たて糸が切れ場合に織機を自動的に停止させるたて糸切断自動停止装置を装備したことで、生産性と織物品質を飛躍的に向上させました。この画期的な発明は欧米の先進国をも驚かせ、1929年には世界的紡績機のトップメーカーとしてとされた英国のブライト社へ技術供与されています。また、G型自動織機は第二次大戦後、戦災からの復興をめざす日本の機械輸出第一号として、貴重な外貨獲得に貢献しました。このコーナーの展示では、そうしたG型自動織機に関わる国内外の特許証や技術供与契約書などを見ることができます。
佐吉が理想とした環状機械開発時の資料を展示

織機の自動化という大きな目標を達成した佐吉が次に挑んだのは、動きを無駄なく利用して大きな布も静かに製織できる理想の織機の開発でした。その実物、「環状織機」は産業技術記念館のエントランスロビーに当記念館のシンボルとして動態展示されていますが、トヨタグループ館ではその独創の一端を示すシャトルや回転機構、特許証、試験運転の経緯を伝える資料などを公開しています。

また、佐吉が実際に用いた製図道具や構想図の写し、直筆で書かれた書類なども展示され、生涯を発明に捧げた佐吉の情熱の一端を今に伝えています。

戦前の自動車カタログなど貴重な実物資料も

トヨタ自動車の設立総会がこの建物で催されたのは1937年のことです。それ以前と後でトヨタはトラックやバス、乗用車を新造と発売し、国産自動車メーカーとしての先陣を切りました。そんな当時の珍しいカタログ各種の実物を、このコーナーでは見ることができる。「国産愛用」や「国産トヨタ」など「国産」が強調される中で、「100,000,000円」と大書されたカタログの意味するのは、当時の外国車輸入の総額が約1億円にも及ぶため、その金額は国産であるトヨタ車の購入にあてれば、外貨の流出が防げるうえに国益にもかなうという主張でした。

トヨタグループ各社創成の歴史をたどる

1階展示フロアの最奥は、トヨタグループ13社の概要や系譜を伝える情報コーナー。名古屋駅前に1955年に建設された豊田ビルのパンフレットやトヨタ記念館の第一号機など貴重な実物展示のほか、グループの発展に寄与したさまざまな人々についても、このコーナーで知ることができます。

また、階層の部屋は映像コーナーとなっており、グループ各社の映像記録が視聴可能。大正時代に着用された豊田家の家紋付「しろしま」等の実物も展示されています。

産業技術記念館の展示施設の中では、わずかに一階を占めるに過ぎない小さな建物ですが、ここには豊田佐吉をはじめ先人達の研究と創造にかけた思いが、今もなお静かに息づいています。

豊田記念館は、佐吉の精神を事業の基本とするよう、佐吉の六四句にあたる1935年にまとめられた、現在もトヨタグループ各社の社足・社訓になっている。
江戸職人が魅せる
なるほどメカニズム
～ゼンマイ・バネ・オモリ～

台時計
時計針は重りが下がるに従って1日で1回転します。2つの天符式調速機構によって、昼と夜の単位時間間の長さが自動的に切り替わるように工夫され、時報や目覚まし機能（タイマー）まで付いています。

小方鏡
小型の磁石による方位測定器。盤面下部に重りをつけて、盤面が常に水平になるよう工夫されています。プロ仕様の測量道具として精密測定機にふさわしい雰囲気を醸し出します。

重りを活用
段返り人形
とんぼ返りをしながら、階段を降りていくからくり人形。人形の内部に水銀が入っていて、重力移動でバランスを変化させながら一段ずつ段階を降りていきます。ゼンマイではなく、重りを活用している点が興味深い。

尺時計
重りの降りる位置の目盛りを読む、時刻を知る時計。機構も簡単で最も普及した和時計でした。金属部分に雨かれた観音像が全体のデザインにも目を奪われます。

ゼンマイ、バネを活用
かんごどり
鐘盤風時計
ゼンマイ式で文字盤の圧力に、日付、潮の溝を引き、月の溝からけが表示されます。現在の時刻を示す機能をもたない珍しい時計です。

無尽灯（奥村善次系続）
燃料の蒸留油が強く、灯芯を上昇させにくいため、内部に仕掛けたコイルバネで油圧を加え、油を押し上げる仕組みとしています。

関連イベント
からくり実演
日 時 開催中の日・祝日 11:10, 13:30, 15:50(各20分程度)
内 容 段返り人形、茶道具人形など近年のからくり作品による実演
図書室
繊維・織物関係をはじめ、科学、技術、産業、自動車、ファッションなどの蔵書が約7万冊！
産業技術記念図書室ホームページ（WEB上での蔵書検索がある）  http://www.tcmit.org/outline/library.html

「染織」に続くシリーズとして、「更紗」関連の蔵書をご紹介します。「更紗」とは、おもに花や人物、動物などの模様を染めつけた木綿の布で、インドが起源とされています。この更紗が世界各地に伝わり、それぞれの地で独自の進化を遂げました。

第1回 「インド更紗」
インドでは、紀元前2000年のある遺跡から染色した木綿が発見されており、古くから染めの技法が発達していました。現代に伝わる更紗は16世紀以降にその技法が確立されたと言われます。
模様は手描きや木版プリントを用います。染料は、明礬などの「媒染剤」と呼ばれる溶液を媒介にして独自の色を使い、このあと絹で走って染めを行います。インド更紗は、鮮やかな色とり、羽毛やヘンプを紋様、あるいはヒンドゥー教に由来するユニークな図柄などを特徴としています。

ビデオライブラリー
戦前から現在に至るまでの歴史的な記録映像やオリジナル映像などが約300点！

「第11回 東京モーターショーの記録」
1964（昭和39年）開催の東京モーターショーを紹介する自動車工業振興会（現在は日本自動車工業会に統合）の記録映像です。この年は東京オリンピックの年、東海道新幹線開通、首都高速道路も整備されました。クラウンエイト、3代目コロナなどのファミリーカーをはじめ、本国が高速化時代の幕開けに伴い、ベレットGTやスカイラインGTといった人気スポーツカーもデビュー。

このような市販車のほか、バンプレストスポーツ、マツダコスモスポーツなどの参考出展、二輪車、商用車、自動車部品に加え、初参加の外国車も紹介。話題豊富で展示技術も向上し、見るだけでも楽しいモーターショーの雰囲気を存分に伝えてます。車に寄り添うモデルも大人の楽園。車・音楽・ナレーションも時代を映し出し、マニアのみならず、年配の方には懐かしく、若い人は新鮮で楽しい。見ごたえ満点の映像資料です。
鈴鹿墨の発祥は平安時代の初期。鈴鹿周辺には墨を取るための原料（ヤニを多く含んだ高齢の松）が多く自生し、墨を最適な状態にするためのアラルカリ性の水に恵まれ、さらに紀州藩の保護のもと、鈴鹿墨の生産が盛んになったといわれています。

伊藤亀堂さんは20歳で父、亀吉さんにお世話になり、今ではただ一人の鈴鹿墨の伝統工芸士です。「進誠堂」は昭和22年に祖父が創業し、おじいちゃんがだった私は祖父から絵を描くようにと図る亀堂さん。

しかし、墨づくりは体が真っ黒になり、早朝4時から始まる過酷な仕事です。昭和40年代に鈴鹿墨製作を始め、墨を製造し、それから墨を磨いて墨をつくるのです。その真剣な作業ぶりは、鈴鹿墨の名を世界に知らしめました。

昭和40年代に鈴鹿墨製作を始め、墨を製造し、それから墨を磨いて墨をつくるのです。その真剣な作業ぶりは、鈴鹿墨の名を世界に知らしめました。

「昭和40年代に鈴鹿墨製作を始め、墨を製造し、墨を磨いて墨をつくるのです。その真剣な作業ぶりは、鈴鹿墨の名を世界に知らしめました。

昭和40年代に鈴鹿墨製作を始め、墨を製造し、墨を磨いて墨をつくるのです。その真剣な作業ぶりは、鈴鹿墨の名を世界に知らしめました。

昭和40年代に鈴鹿墨製作を始め、墨を製造し、墨を磨いて墨をつくるのです。その真剣な作業ぶりは、鈴鹿墨の名を世界に知らしめました。
週末ワークショップ「年末年始スペシャル」を開催しました。
冬休み期間中（12/25～1/6）の開館日（6日間）に
親子でモノづくりを楽しんでいただけるよう、週末
ワークショップ「年末年始スペシャル」を開催し
ました。今回の種目は、「糸をつくる」「ハーブ石けん
をつくる」「毛糸でアクセサリーをつくる」の3つ。
連日、多くの人にお楽しみいただきました。

豊田式汽力織機のタイニング作業を実施しました。
2月19日、繊維機械館に動態展示である豊田式汽力機
の「タイニング作業」を行いました。「タイニング」とは、たて糸ビーム（糸巻）
残量が無くなりかけた時に新しいたて糸を補給する作業のことです。
144本ある織機上のたて糸を切断して残量の少なくなったビームを
取り外し、約450メートルのたて糸を巻きつけた新しいビームをはめ
込み、一本一本手作業でたて糸を繋ぎます。気の遠くなるような作業
は、2人がかりで約5時間かかって終了しました。

近代化産業遺産スタンプラリーを実施しました。
春休み期間の3月25日（金）から4月5日（火）まで、春
休みイベントの一環として、「近代化産業遺産スタンプ
ラリー」を実施しました。2007年11月に、当館の建物
および蔵物13件が経済産業省より「近代化産業遺
産」の認定を受けました。それらのポイントを回るスタ
ンプラリーを実施し、全ポイントを制覇した方にはポス
トカードをプレゼントしました。

新種目「糸つむぎ」も加わり
テクノライブショー好評開催中！
モノづくりや機械のしくみ・原理をショー形式の実演に
よってわかりやすく解説する「テクノライブショー」に、
今年1月から新種目「糸つむぎ」が登場しました。縄毛
を巻いたたて糸から糸をつ
むぐ実演を行います。強くて
切れにくい糸をつくるにはどう
しょうしたらよいか、一緒に考え
てみましょう。
※現在テクノライブショーは土、日祝日の1日2回（14:00、15:00各15分程度）自動車館内で実施中です。
トヨタコレクション企画展
江戸職人が魅せる
なるほどメカニズム
～ゼンマイ・パネ・オモリ～

3月25日(金)～5月8日(日)
当館では「トヨタコレクション」と呼ばれる江戸から明治時代の機械玩具を展示しています。今回は廃産前後の限られた江戸時代にゼンマイパネを集めたものと、時代計、時計、年間時計、時計棒などと紹介します。期間中の土・日曜日には放課後人形、茶道人形など近世から昭和作を含む美術品の展示を行います。詳細についてはホームページをご覧ください。

開館記念特別イベント
子どもから大人まで楽しく体験できる
イベントを実施します。
6月11日(土)・12日(日)

次代を担う子供たちが「モチベーション」を育む場を
持ち、豊かな創造性を
育むきっかけとなる
各種プログラムを用意し
ました。是非ご参加く
ださい！

参加者の選定方
法が抽選式に変わっ
ました。

参加申し込みはホームページから！(電話、FAX、携帯からはお申込みいただけません。)
http://www.tcmnt.org/workshop/
お問い合わせ先：電話(052)551-6033(開館日の8:45～17:45) メールアドレス：workshop@toyota-eo.co.jp

6月開催分受付期間
4/27(水)～5/11(木)
（受付開始日から3日前まで）

ランチタイム
お手頃価格のランチをお楽しみいただけます
シェフおすすめランチを
¥997からご提供。

貸切パーティー
気の合う仲間とご自由にお使いいただけます
館内セミナー後の懇親会、歓迎会、結婚披露宴、二次会など、さまざまなご利用いただけます。
立食バーティー
¥3,150～(100名様まで)
同宴会バーティー
¥5,250～(60名様まで)

Annual Pass 年間パス

*各界域通行に対応

Vol.55 発行日／平成23年4月 産業技術記念館
産業技術記念館
〒451-0651 名古屋市中区東側通1丁目13号
TEL052-551-6115 FAX052-551-6189
http://www.tcmnt.org/